

平成 26 年 10 月 30 日

各位

会社名 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
 代表者氏名 代表取締役社長 小澤 洋介
 (コード番号: 7774 JQ)
 本店所在地 愛知県蒲郡市三谷北通 6 丁目 209 番地の 1
 問合せ先 取締役経営管理部長 大林 正人
 電話番号 0533-66-2020 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成 26 年 4 月 30 日に公表した平成 27 年 3 月期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）の通期業績予想を修正しましたのでお知らせいたします。併せて、富士フィルムホールディングス株式会社が本日開示した資料「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング社を連結子会社化」にもとづき、当社中期経営計画に与える影響について言及します。

記

1. 通期業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,142	△251	△247	△251
今回発表予想 (B)	1,275	△982	△760	△764
増減額 (B-A)	△866	△730	△512	△512
増減率 (%)	△40.5%	—	—	—

なお当社は、第 2 四半期累計期間の業績予想を開示しておりません。

2. ご参考：前期の実績（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第 2 四半期累計期間	419	△491	△494	△496
通期	1,008	△1,025	△823	△827

3. 修正の内容とその理由

平成 27 年 3 月期の売上高予想の内訳は、次のとおりです。

(単位：百万円)

事業セグメント	内訳	修正前売上高	修正後売上高
再生医療製品事業	自家培養表皮ジェイス	700	500
	自家培養軟骨ジャック	842	187
	受託開発	503	491
研究開発支援事業	ラボサイトシリーズ	96	96
合計		2,142	1,275

通期売上高は、当初予想よりも約 866 百万円減少し 1,275 百万円となる計画です。公的機関からの委託事業および助成事業に関する収入として、約 234 百万円の営業外収益を見込みます。一方で、自家培養軟骨ジャックの営業活動に係る費用の増加が見込まれます。売上高の減少、販

売費及び一般管理費の増加、営業外収益の計上に伴い、営業利益△982 百万円、経常利益△760 百万円、当期純利益△764 百万円となる見込みです。

通期業績予想を修正する主要な理由として、3 点を挙げます。第 2 四半期累計期間終了時点において、①自家培養表皮ジェイスの売上高が計画を下回っていること、②自家培養軟骨ジャックの売上高が計画を下回っていること、及び③営業外収益の内容が明確になったことです。

【①自家培養表皮ジェイスの売上高修正】

第 2 四半期累計期間の売上高実績に、今後の業績動向を勘案し、通期売上高を 700 百万円から 500 百万円に修正しました。受注に波があると同時に無償提供割合が増加したこと、また、前期（平成 26 年 3 月期）の出荷前製造中止率が 25%と低かったことに比べ、今期（平成 27 年 3 月期）の出荷前製造中止率は約 45%と高めに推移していること等が、売上高減少の理由です。

【②自家培養軟骨ジャックの売上高修正】

製造販売承認の条件であり、保険適用に関する留意事項でもある「実施医と実施施設に対する研修」を遂行しており、多くの医療機関で準備が整いつつあります（平成 26 年 9 月 30 日時点におけるジャック認定施設：117 機関、認定医：684 名）。しかし、ジャック適応症例の獲得に至っていない施設が多く、売上が伸び悩みました。ジャック移植症例は着実に増加していますが、第 2 四半期累計期間の売上高実績を踏まえ、下期における大量の受注獲得は困難であると判断し、通期売上高を 842 百万円から 187 百万円に修正します。

【③営業外収益の計上】

当社は平成 27 年 3 月期において、国をはじめとする公的機関からの委託事業及び助成事業に係る営業外収益を見込んでおります。総額約 234 百万円の営業外収益を計上する見込みです。

4. 中期経営計画について

平成 27 年 3 月期の業績予想修正に伴い、中期経営計画の見直しを進めておりますが、現時点では不確定要素が多く精緻化できておりません。当社は中期経営計画(平成 26 年 5 月 14 日発表)において、平成 28 年 3 月期の黒字化を掲げています。当該計画では、自家培養軟骨ジャックが黒字化を牽引するというシナリオを描いています。自家培養軟骨ジャックの市場開拓は着実に進展しているものの、製品が上市されて間もないことから市場規模や普及期間を慎重に判断する必要があります。

また、富士フイルムホールディングス株式会社が本日開示した「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング社を連結子会社化」を受け、富士フイルムグループとの連携による当社中期経営計画への影響も精査する必要があります。新株予約権 18,000 個の行使により当社が受け取る 6,840 百万円の用途は、国内外の活動に関する運転資金と設備投資を想定しておりますが、平成 26 年 11 月 25 日に施行される医薬品医療機器等法（改正薬事法）ならびに再生医療等安全性確保法の積極的な活用も考慮に入れた資金用途を中期経営計画に盛り込みます。

さらに、上記 2 法の施行に伴い、当社が開発を進める再生医療等製品の追加・優先順位変更も中期経営計画に反映することにより、当社企業価値の向上を目指します。

上記内容が明確になり次第、速やかにお知らせいたします。

(業績予想に関する注意事項)

上記に記載しました予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、状況の変化などにより上記予想数値と異なる場合があります。

以上